

辺野古新基地建設の是非についての公開質問状

宗教法人創価学会会長
原田 稔様

拝啓、晩夏の候 貴教団におかれましては、核兵器廃絶の運動を始めとする世界平和の構築、文化繁栄、地球環境保護のためのお働きに、ますますご盛栄のことと、心からお慶び申し上げます。

わたくしども「平和をつくり出す宗教者ネット」は、「命を守る」という基本的立場から、宗派・教派を超えて心を合わせ、平和の祈りと行動をともに国内外へ広めていこうと、2002年4月に発足した、諸宗教の平和団体です。

さて、すでにご存知のことと思いますが、現在、米軍の新基地建設事業によって、沖縄県名護市辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が、危機的な状況を迎えております。現段階では、本格工事には至っていないものの、2017年4月に護岸工事が着工し、コンクリートブロック約300個が設置され、様々な貴重生物が下敷きになりました。また、絶滅が危惧されているジュゴンの餌場である海草藻場も破壊されています。

こうした状況に対して、故翁長雄志沖縄県知事は、今年7月27日、辺野古埋め立て承認撤回の意思を公にし、7月31日、沖縄防衛局局長にあて、8月9日に聴聞実施を通知しました。これに対し、8月6日政府からの聴聞延期の要請がありましたが、これを拒否、あらためて新基地建設撤回の強い意志を示しながら、8月8日、ついに命を尽くされました。わたくしども「平和をつくり出す宗教者ネット」は、豊かな自然に恵まれた沖縄の維持と、基地のない平和な沖縄の実現のために身を尽くされ、意思半ばにしてご逝去された故翁長雄志沖縄県知事に、心から、深い哀悼の祈りをささげるとともに、その意思を必ず未来につなげ、辺野古・大浦湾の自然破壊を決して許さないことを、ここに誓います。

つきましては、世界平和と環境保護のために実に大きな取り組みをされている創価学会様が、辺野古・大浦湾の自然環境保護に関して、どのようなお立場をとられるのか、社会に対して明らかにしていただきたく、以下の質問への回答をお願いする次第です。

故翁長知事ご存命の今年3月24日、沖縄県は県の主催で「辺野古・大浦湾シンポジウム」を開催し、「辺野古・大浦湾の貴重な自然を守るための声明文」を採択、日米両政府に以下の2点を求めました。

(声明文全文は、沖縄県公式サイトに掲載されています。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/henoko/documents/seimeibun.pdf>)

- (1) 現在行われている辺野古新基地建設に伴う工事を直ちに中止し、辺野古・大浦湾の生態および生態系サービスへの影響を正確に理解するために、徹底的な調査を行い、改めて評価すること
- (2) 貴重な辺野古・大浦湾の自然環境を守るために、辺野古新基地建設を断念すること

以上2点の要求につきまして、それぞれ、宗教法人創価学会としての御意見をお聞かせください。

ご多忙のところ恐縮ですが、何卒、回答いただけますようお願い申し上げます。なお、ご回答の内容については、インターネット上で紹介させていただきたいと思っております。また、9月12日を過ぎてもご回答がない場合は、勝手ながら、その旨、ネット上にて紹介させていただきますことを、ご理解ください。

以上、末筆ながら、宗教法人創価学会の今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

2018年9月5日

「平和をつくり出す宗教者ネット」

石川勇吉（真宗大谷派僧侶）
石黒友大（日蓮宗僧侶）
大倉一美（カトリック司祭）
小武正教（浄土真宗本願寺派住職）
小野文瑠（日蓮宗僧侶）
勝谷太治（カトリック司教）
金 性済（日本キリスト教協議会総幹事・
牧師）
對月慈照（真宗大谷派僧侶）
武田隆雄（日本山妙法寺僧侶）
谷 大二（カトリック名誉司教）
坂内義子（元キリスト者政治連盟委員長）
比企敦子（日本キリスト教協議会教育部）
昼間範子（カトリック信徒）